

# 外郎売り（ういろうり）

せっしゃおやかたともうすは、  
拙者親方と申すは、  
おたちあいのうちに、  
お立会の中に  
ごぞんじのおかたもござりましょうが、  
御存じのお方もござりましょうが、  
おえどをたつて にじゅうりかみがた、  
お江戸を発って二十里上方、  
そうしゅうおだわら いっしまちを おすぎなされて、  
相州小田原一色町をお過ぎなされて、  
あおもちょうを のぼりへ おいでなされるれば、  
青物町を登りへおいでなされるれば、  
らんかんばしとらやとうえもん ただいまは ていはついたして、  
欄干橋虎屋藤衛門、只今は剃髪致して、  
えんさいとなのりまする。  
円斎と名のりまする。  
がんちょうより、おおつごもりまで、  
元朝より、大晦日まで、  
おてにいれまする このくすりは  
お手に入れまする此の薬は、  
むかし ちんのくにのとうじん、  
昔ちんの国の唐人、  
ういろうというひと、  
外郎という人、  
わがちょうへきたり  
わが朝ちょうへ来たり、  
みかどへ さんだいのおりから、  
帝へ参内の折りから、  
このくすりを ふかくこめおき、  
この薬を深く籠め置き、  
もちゆるときは いちりゅうずつ、  
用ゆる時は一粒ずつ、  
かんむりのすきまより とりいだす。  
冠のすき間より取り出いだす。  
よってそのなをみかどより、  
依って、その名を帝より、

とうちんこうとたまわる。

「とうちんこう」と賜わる。

すなわちもんじには、

即ち文字には、

いただき、すく、においとかいて「とうちんこう」ともうす。

「頂き、透く、香い」と書いて「とうちんこう」と申す。

ただいまはこのくすり、

只今はこの薬、

ことのほか せじょうにひろまり、

殊の外ほか、世上に弘まり、

ほうぼうににせかんばんをいだし

方々に偽看板を出し、

いや、おだわらの、はいだわらの、さんだわらの、すみだわらのと、いろいろもうせども

イヤ、小田原の、灰俵の、さん俵の、炭俵のと、いろいろに申せども、

ひらがなをもって「ういろう」としるせしは、おやかた えんさいばかり。

平仮名をもって「ういろう」と記せしは、親方円斎ばかり。

もしやおたちあいのうちに、

もしやお立会いの中に、

あたみかとうのさわへ、とうじにおいでなさるるか、

熱海か塔の沢へ、湯治にお出でなさるるか、

またはいせごさんぐうの おりからは、

又は伊勢御参宮の折からは、

かならずかどちがいなされまするな。

必ず門違いなされまするな。

おのぼりならばみぎのかた、

お登りならば右の方、

おくだりなればひだりがわ

お下りなれば左側、

はっぼうがやつむね、おもてがみつむねぎょうくどうづくり。

八方が八つ棟、表が三つ棟玉堂造り。

はふには きくにきりのとうの ごもんごしゃめんあつて

破風には菊に桐のとうの御紋を御赦免あつて、

けいずただしきくすりでござる。

系図正しき薬でござる。

いやさいぜんよりかめいのじまんばかりもうしても、

イヤ最前より家名の自慢ばかり申しても、

ごぞんじないかたには、しょうしんのこしょうのまるのみ、しらかわよふね、

ご存知ない方には、正身の胡椒の丸呑み、白河夜船、

さらば いちりゅうたべかけて、そのきみあいをおめにかけましょう。  
さらば一粒食べかけて、その気味合いをお目にかけましょう。  
まずこのくすりを、かようにいちりゅう したのうえにのせまして、  
先ずこの薬を、かように一粒舌の上ののせまして、

ふくないへおさめますと、  
腹内へ納めますと、  
いや どうもいえぬは、  
イヤどうも言えぬは、  
い・しん・はい・かんがすこやかになりて  
胃・心・肺・肝がすこやかになりて  
くんぷうのんどよりきたり、こうちゅうびりょうをしょうずるがごとし  
薫風候より来たり、口中微涼を生ずるが如し。  
ぎょちょう・きのこ・めんるいのくいあわせ、  
魚鳥・茸・麺類の食べ合わせ、  
そのほか、まんびょうそっこうあることかみのごとし。  
その外、万病速効ある事神の如し。  
さて、このくすり、  
さて、この薬、  
だいいちのきみょうには、  
第一の奇妙には、  
したのまわることが、ぜにごまがはだしでにげる。  
舌のまわることが、銭ゴマがはだしで逃げる。  
ひよっとしたまわりだすと、  
ひよっと舌がまわり出すと、  
やもたてもたまらぬじゃ。  
矢も楯もたまらぬじゃ。  
そりゃそりゃ、そらそりゃ、まわってきたわ、まわってくるは。  
そりゃそりゃ、そらそりゃ、まわってきたわ、まわってくるわ。  
あわやのんど、  
アワヤ候、  
さたらなじたに、かげさしおん、  
サタラナ舌に、カ牙サ歯音、  
はまのふたつはしんのけいちょう、かいごうさわやかに、  
ハマの二つは唇の軽重、開合さわやかに、  
あかきたなはまやらわ、おこそこのほもよろお。  
アカサタナハマヤラワ、オコソトノホモヨロオ。  
ひとつへぎへぎに、へぎほし、はじかみ、  
一つへぎへぎに、へぎほし、はじかみ、

ぼんまめ、ぼんごめ、ぼんごぼう  
盆豆、盆米、盆ごぼう、  
つみだて、つみまめ、つみざんしょ、  
摘蓼 摘豆 つみ山椒、  
しょしゃざんのしゃそうじょう  
書写山の社僧正、

こごめのなかまがみ、こごめのなまがみ、こんこごめのこなまがみ、  
粉米の生噛み、粉米の生噛み、こん粉米の小生噛み、  
しゅす・ひじゅす・しゅす・しゅちん、  
繻子・ひじゅす・繻子・繻珍、  
おやもかへい、こもかへい、  
親も嘉兵衛、子も嘉兵衛、  
おやかへいこかへい、こかへいおやかへい、  
親かへい子かへい、子かへい親かへい、  
ふるくりのきのふるきりくち、  
古栗の木の古切口。  
あまがっぱか、ばんがっぱか、  
雨合羽か、番合羽か、  
きさまのきやはんもかわきやはん、  
貴様のきやはんも皮脚絆、  
われらがきやはんもかわきやはん、  
我等がきやはんも皮脚絆、  
しっかわばかまのしっぽころびを、  
しっかわ袴のしっぽころびを、  
みはりはりながに ちよとぬうて、ぬうて ちよとぶんだせ  
三針はり長にちよと縫うて、縫うてちよとぶんだせ、  
かわらなでしこ、のぜきちく、  
かわら撫子、野石竹、  
のらによらい、のらによらい  
のら如来、のら如来、  
みのらによらいにむのらによらい、  
三のら如来に六のら如来。  
ちよとさきのおこぼとけに、おけつまずきやるな、  
一寸先のお小仏に、おけつまずきやるな、  
ほそどぶにどじよによろり。  
細溝にどじよによろり。  
きょうのなまだら、ならなまながつお、ちよとしごかんめ、  
京のなま鱈、奈良なま学鯉、 ちよと四、五貫目、

おちゃたちよ、ちゃたちよ、ちゃつとたちよ、ちゃたちよ、  
お茶立ちよ、茶立ちよ、ちゃつと立ちよ、茶立ちよ、  
あおたけちゃせんで おちゃちゃとたちよ。

青竹茶筥でお茶ちゃと立ちよ。

くるはくるはなにがくる、  
来るは来るは何が来る、  
こうやのやまのおこけらこぞう、  
高野の山のおこけら小僧、

たぬきひゃっぴき、はしひやくぜん、てんもくひゃっばい、ぼうはっぴゃっぼん  
狸百匹、箸百膳、天目百杯、棒八百本。

ぶぐ、ばぐ、ぶぐ、ばぐ、みぶぐばぐ、  
武具、馬具、ぶぐ、ばぐ、三ぶぐばぐ、

あわせてぶぐ、ばぐ、むぶぐばぐ、  
合わせて武具、馬具、六ぶぐばぐ、

きく、くり、きく、くり、みきくくり、

菊、栗、きく、くり、三菊栗、

あわせてきく、くり、むきくくり。

合わせて菊、栗、六菊栗、

むぎ、ごみ、むぎ、ごみ、みむぎごみ、

麦、ごみ、むぎ、ごみ、三麦ごみ、

あわせてむぎ、ごみ、むむぎごみ。

合わせてむぎ、ごみ、六麦ごみ。

あのなげしのながなぎなたは、たがながなぎなたぞ。

あの長押の長薙刀は、誰が長薙刀ぞ。

むこうのごまがらは、えのごまがらか、まごまがらか、

向こうの胡麻殻は、荏のごまがらか、真ごまがらか、

あれこそ、ほんのまごまがら。

あれこそ、ほんの真胡麻殻。

がらびい、がらびい、かざぐるま、

がらびい、がらびい、風車、

おきやがれこぼし、おきやがれこぼうし、ゆんべもこぼしてまたこぼした。

おきやがれこぼし、おきやがれ小法師、ゆんべもこぼして又こぼした。

たあぶぼぼ、たあぶぼぼ、ちりから、ちりから、つつたっぼ、

たあぶぼぼ、たあぶぼぼ、ちりから、ちりから、つつたっぼ、

たっぼたっぼいっちょうだこ、おちたらにてくお

たっぼたっぼ一丁だこ、落ちたら煮て食お、

にてもやいてもくわぬものは、

煮ても焼いても食わぬ物は、

ごとく、てつきゅう、かなくまどうじに、いしくま、いしもち、とらくま、とらきす、  
五徳、鉄きゅう、かな熊童子に、石熊、石持、虎熊、虎きす、  
なかにも、とうじのらしょうもんには  
中にも、東寺の羅生門には  
いばらきどうじが、うでくりごんごうつかんで おむしゃる。  
茨木童子が、うで栗五合つかんでお蒸しゃる。  
かのらいこうのひざもとさらず。  
かの頼光のひざもと去らず。  
ふな、きんかん、しいたけ、さだめてごだんな、  
鮒、きんかん、椎茸、定めて後段な、

そばきり、そうめん、うどんか、ぐどんなこしんぼち、  
そば切り、そうめん、うどんか、愚鈍な小新発知、  
こだなの、こしたの、こおけに、こみそが、こあるぞ、  
小棚の、小下の、小桶に、こ味噌が、こ有るぞ、  
こしゃくし、こもって、こすくって、こよこせ、  
小杓子、こ持って、こ掬って、こよこせ、  
おっとがってんだ、  
おっと合点だ、  
こころえたんぼのかわさき、かながわ、ほどがや、とつかは、はしっていけば、  
心得たんぼの川崎、神奈川、程ヶ谷、戸塚は、走って行けば、  
やいとをすりむく、さんりばかりか、  
やいとを摺りむく、三里ばかりか、  
ふじさわ、ひらつか、おおいそがしや、こいそのやどを、  
藤沢、平塚、大磯がしや、小磯の宿を、  
ななつ おきして、そうてんそうそうそうしゅうおだわらとうちんこう、  
七つ起きして、早天早々相州小田原とうちん香、  
かくれござらぬ、きせんぐんじゅの、はなのおえどのはなういろう、  
隠れござらぬ、貴賤群衆の、花のお江戸の花ういろう、  
あれ、あのはなをみて おこころをおやわらぎやという。  
あれ、あの花を見てお心をおやわらぎやという。  
うぶこ、はうこにいたるまで、  
産子、這う子に至るまで、  
このういろうのごひょうばん、  
この外郎の御評判、  
ごぞんじないとは もうされまいまいつぶり。  
ご存知ないとは申されまいまいつぶり。  
つのだせ、ぼうだせ、ぼうぼうまゆに、  
角出せ、棒出せ、ぼうぼうまゆに、

うす、きね・すりばち、ばちばち、ぐわらぐわらぐわらと、  
臼・杵・すりばち、ばちばち、ぐわらぐわらぐわらと、  
はめをはずして、こんにちおいでのいずれもさまに、  
羽目をはずして、今日お出でのいずれも様に、  
あげねばならぬ、うらねばならぬと、  
上げねばならぬ、売らねばならぬと、  
いきせいひっぱり、  
息せい引っぱり、  
とうほうせかいのくすりのもとじめ、  
東方世界の薬の元締め、  
やくしによらいもしょうらんあれと、  
薬師如来も照覧あれと、

ほほ、うやまって、  
ホホ、敬って、  
ういろうは、いらっしやいませぬか。  
ういろうは、いらっしやいませぬか。